

計測事業

あなたの暮らしをより便利に、快適に

—情報通信サービスを支える、計測ソリューション—

セキュリティとサービス品質向上に向けた計測需要 ▶▶



2G

3G

LTE

LTE-Advanced

5G

スマート端末の進展 — インターネット・モバイルの進化 ▶▶

計測事業の envision : ensure

スマートフォン、タブレットの使い勝手が飛躍的に向上し、ウェアラブル端末が注目を浴びるなか、LTE、LTE-Advancedといった最新通信技術に支えられるモバイル・ブロードバンド・サービスと超高速データ伝送技術に支えられるクラウドサービスが融合し、圧倒的に便利な環境がごく自然に感じられるようになってきました。

アンリツは、数々のイノベーションによって実現されるこの環境を、各業種のキープレイヤーの方々とともに創り上げてきました。進化は、まだまだ続きます。お客さまと共に歩む「絶えざる変革」を継続してまいります。



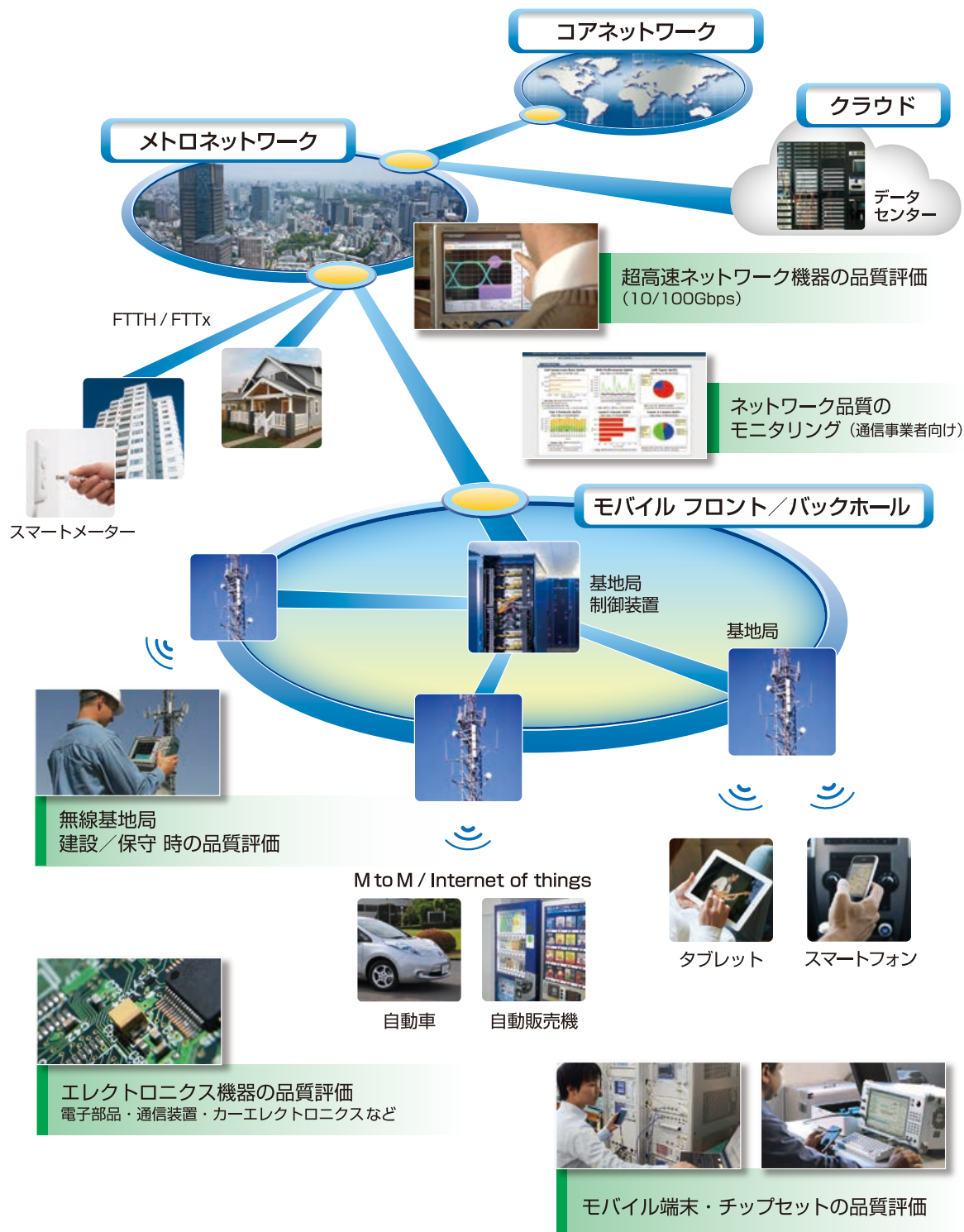
田中 健二

副社長 計測事業グループ プレジデント

■ ビジネス領域

計測事業は、スマートフォンなどのモバイル市場、無線基地局や光通信などのネットワーク・インフラ市場、さまざまな機器に用いられる通信用電子部品や通信装置などのエレクトロニクス市場でビジネスを展開しています。有線・無線を問わ

ず、通信の全領域をカバーする技術力と、グローバルに広がる開発・サポート体制を強みに、最先端の市場要求に対応した計測ソリューションで、モバイル・ブロードバンド・サービスの進展に貢献しています。



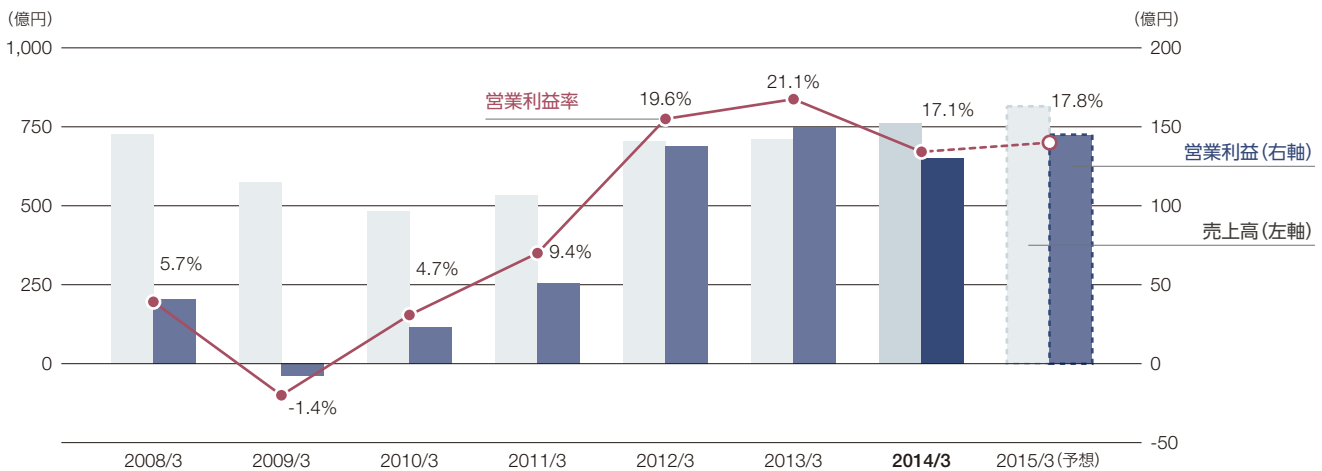
■ 2014年3月期(当期) のレビュー

当期は、モバイル市場では日本のスマートフォンベンダーなどのモバイル事業からの撤退による需要縮小がありました。一方、米州・アジアを中心とする海外市場でのLTEおよびLTE-Advanced関連の活発な開発投資が事業を牽引しました。ネットワーク・インフラ市場は、トラフィックの急増に対応した40Gbpsネットワークの建設および100Gbpsネットワーク装置の研究開発が本格化するとともに、スマートフォンの

普及により急増するデータ通信需要に応えるため、基地局およびモバイル・バックホールの建設が増加し、関連する計測器需要が拡大しました。エレクトロニクス市場では、モバイル・ブロードバンド・サービスの拡大により、用途が多岐にわたる無線モジュールの開発製造需要が増加しました。

この結果、前期比7%増収の売上高760億円、営業利益は同13%減少の130億円、営業利益率17.1%となりました。

計測事業の売上高・営業利益・営業利益率推移



■ 2015年3月期の事業環境と注力ポイント

売上高815億円(前期比7%増収)、営業利益145億円(前期比11%増益)

モバイル市場では、LTE-Advancedに対応したサービスも開始されるなど、最先端の通信技術に準じたサービスをいち早くユーザーに提供するための開発競争に拍車がかかっている

ます。また今年度はTD-LTE方式の本格普及も予想され端末の製造台数は大きな伸張が見込まれます。引き続き最適なソリューションの提供に努め業績拡大に努めます。

事業環境	注力ポイント
<ul style="list-style-type: none"> ■ LTE-Advanced開発のさらなる進展 <ul style="list-style-type: none"> ● キャリア・アグリゲーション ● MIMO/VoLTE 	<ul style="list-style-type: none"> ■ サポート体制強化による、規格適合試験、事業者受入試験の受注拡大
<ul style="list-style-type: none"> ■ 新興端末ベンダーの成長による市場の拡大 <ul style="list-style-type: none"> ● IT系プレイヤーの端末ビジネス ● 中国、インドの新興プレイヤー 	<ul style="list-style-type: none"> ■ リファレンス・デザインを提供するチップセットベンダーとの関係強化と端末製造ソリューションの充実
<ul style="list-style-type: none"> ■ TD-LTE市場の本格化 <ul style="list-style-type: none"> ● 中国での免許付与 ● 端末開発・製造の広がり 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 中国を中心としたグローバルなTD-LTE関連需要の取り込み

■ 計測事業の中長期の目標と基本戦略

売上高成長率7%以上、営業利益率20%以上

計測事業は、世界各国で需要拡大が見込まれる“モバイル市場”を中心に、その拡大を支える“ネットワーク・インフラ市場”および“エレクトロニクス市場”に注力してまいります。

この中長期の目標を達成するための成長ドライバーはLTEを始めとする技術革新です。既に次世代通信技術である“5G”の基礎研究も始まっています。

モバイル通信の技術トレンド

	2014	2016	2018	2020
3GPP	Rel.12	Rel.13	Rel.14	Rel.15
ITU 周波数割当て		★ITU WRC15 ～4.2GHz		～4.9GHz/10～30GHz for 5G
	LTE-Advanced		LTE-Advanced Enhancements	
商用データ速度	～300Mbps	～450Mbps	～600Mbps	～1Gbps…
キャリア アグリゲーション	DL 2CA	FDD/TDD CA		DL 5CA/UL 3CA …
MIMO	4×2			8×8 …
技術課題	VoLTE/RCS/eICIC/COMP/WiFi Interworking/LTE-Unlicensed/Public Safety, D2D…			

モバイル開発ビジネスで広がる事業機会

	プラットフォーム(コア) 開発	規格適合試験		オペレータ受入試験	スマートフォン商用開発
		RF	プロトコル		
用途	通信規格開発 チップセット開発	規格適合性試験 相互接続試験		通信キャリア認証試験	アプリ開発 端末動作検証
主な顧客	チップセットベンダー 端末ベンダー	チップセットベンダー 端末ベンダー テストハウス		通信オペレータ 端末ベンダー テストハウス	端末ベンダー アプリ開発 事業者
市場動向・ 事業機会	→ No. 1 ポジション堅持	→	→ No. 1 市場拡大 ポジション堅持	→ 市場拡大 ポジション向上	→ 市場拡大 ポジション向上

モバイル技術は社会インフラのひとつとしてその活用分野がさまざまな事業領域へと広がり、そのサービスの品質向上の為に“ソフトウェアまで含めた統合的な評価環境”が求められるなど、当社のビジネス機会は今後も拡大していきます。

こうした市場変化に対し、開発投資やサポート体制の強化を進めることで顧客との強固な関係を構築し、そこから生み出される競争優位性を活かして中長期的なビジネス拡大に結び付けていきます。

アンリツは引き続き情報通信サービスの発展を支えてまいります。

産業機械事業

あなたの暮らしに安心を

—異物検査で食の安全を支える各種品質保証ソリューション—



産業機械事業の **envision : ensure**

健康への関心がますます高まってきている今日、日常的に口にする食品や薬品の「安全と安心」はとても重要なテーマとなっています。食品や薬品の製造ラインは多種多様で、お客さまが抱える問題や悩みもさまざまです。

私たちは、お客さまからいただくご要望に応えるだけでなく、製造現場の悩みや潜在する問題まで理解し、それにあわせた最適な品質保証ソリューションを提供することで、お客さまのビジョンの実現に貢献してまいりました。

これからも果敢にイノベーションに挑戦し、世界中の皆さまへ安全と安心をお届けするという夢を確かなものとする取り組みに邁進してまいります。

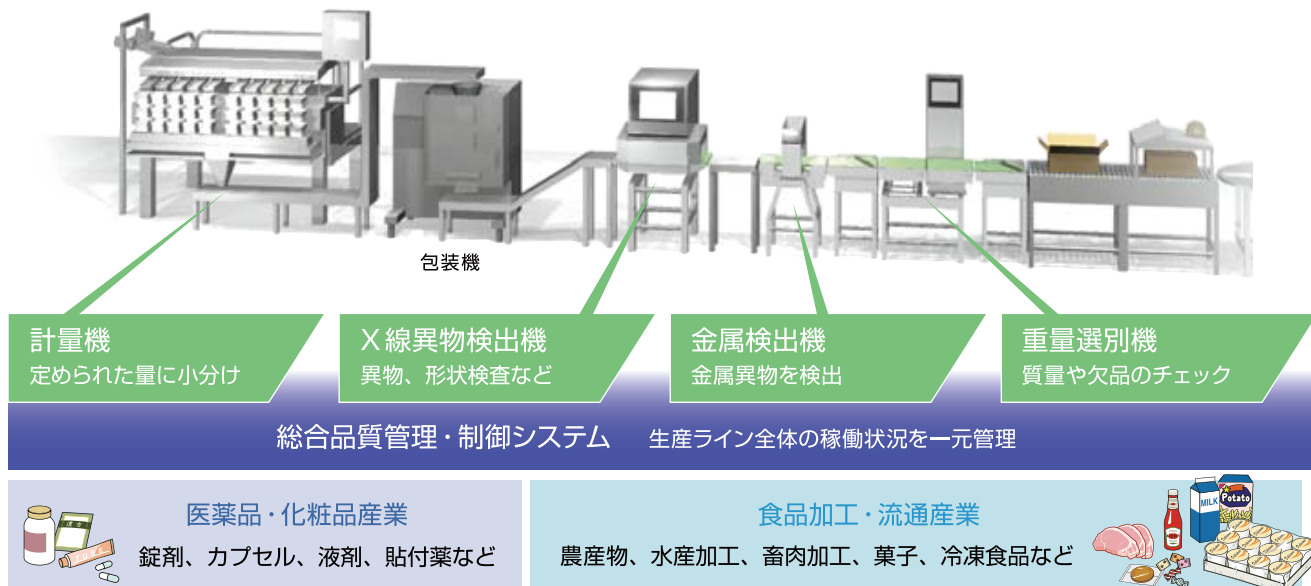


政 文祐
常務執行役員 産業機械事業グループ プレジデント

■ ビジネス領域

産業機械事業は、食品・医薬・化粧品産業向けに、混入した異物を検出するX線異物検出機、金属検出機や、高速高精度な

計量を行う重量選別機などを主力製品としています。約80%が食品産業向けビジネスであり、景気動向による需要の変動が比較的小さな市場で安定的な事業を展開しています。



■ 2014年3月期(当期) のレビュー

食品産業向けで国内の更新需要の獲得および北米市場での新規顧客開拓などにより、異物検出機や重量選別機を中心に需要が好調に推移しました。この結果、前期比17%増収の売上高169億円、営業利益は同48%増の12億円、営業利益率7.1%となりました。

■ 2015年3月期の事業環境と注力ポイント

売上高180億円(前期比6%増収)

営業利益13億円(前期比8%増益)

日本市場では、中食や個食の拡大に伴い食品の生産ラインで使用される検査機器の新設および更新需要が活発になっています。顧客ニーズを捉えたソリューションの機能強化により製品競争力を高め、需要の確実な獲得に繋げていきます。海外市場では、北米/アジア市場の食品検査需要が拡大しています。現地での顧客サポート体制を強化し、グローバルに展開する大手食品メーカーとの関係を深耕するとともに新規顧客開拓を進め、X線異物検出機を中心に需要の獲得に注力します。

■ 産業機械事業の中長期の目標と基本戦略

売上高成長率7%以上、営業利益率12%以上

海外売上比率 35%→50%

食品や薬品の品質保証に対する関心は、「世界中どこでも同じ安全と安心」を提供することが必須課題となっているグローバル企業や、中間所得者層が拡大する新興国市場で高まっています。

この需要に応える品質保証ソリューションの開発、提供に努めるとともに、海外現地生産を含むサプライチェーンの最適化を推進し、事業拡大と収益性の向上に取り組みます。アンリツは引き続き、品質保証システムの提供を通じて安全安心な社会の実現に邁進してまいります。

その他の事業

暮らしのインフラを支える

—いつでも、どこでも安全・安心・快適につながる社会の実現に向けて—

情報通信事業



デバイス事業



■ ビジネス領域

その他の事業は、水道施設・河川などの遠隔監視システムや、金融機関・映像配信事業者などの高信頼性ネットワークを支える帯域制御装置などを提供する情報通信事業、高速・大容

量通信ネットワークを構成する通信装置に不可欠な光／超高速デバイスを提供するデバイス事業などを展開しています。

■ 2014年3月期(当期)のレビュー

情報通信事業は一昨年の経営構造改革の成果もあり、安定した業績を残すことができました。一方、デバイス事業では一部不採算製品からの撤退に伴い、事業構造改革費用を計上しました。この結果、売上高は89億70百万円(前期比0.5%減)となりました。営業利益は前期に含まれていた建物の減損損失費用が当期は発生していないこともあり、9億41百万円(前期比46.7%増)となりました。

■ 2015年3月期の事業環境と注力ポイント

情報通信事業は帯域制御装置の海外拡販を目指すとともに、国内でのテレメータ装置の拡販に努めます。デバイス事業は当期の事業構造改革の成果により収益改善を図る一方、超高速光通信デバイスの拡販に取り組んでいきます。

研究開発

アンリツグループは、“オリジナル&ハイレベル”な技術の追求を競争優位の源泉と位置づけています。グローバルな研究開発体制と、積極的な標準化活動への参画を通じ、顧客価値の高いソリューションの開発に取り組むとともに、知的財産の戦略的な活用による競争力強化を図っています。

■ 研究開発投資の基本方針

技術進化のスピードが速い通信業界において、計測事業のモバイル分野を中心に、研究開発テーマは加速度的に増加する傾向にあります。こうした中、当社はリターンを重視した研究開発投資マネジメントを行うことで、投資効率の向上を図っています。

KPI：開発ROI（売上総利益／開発投資額） \geq 4.0

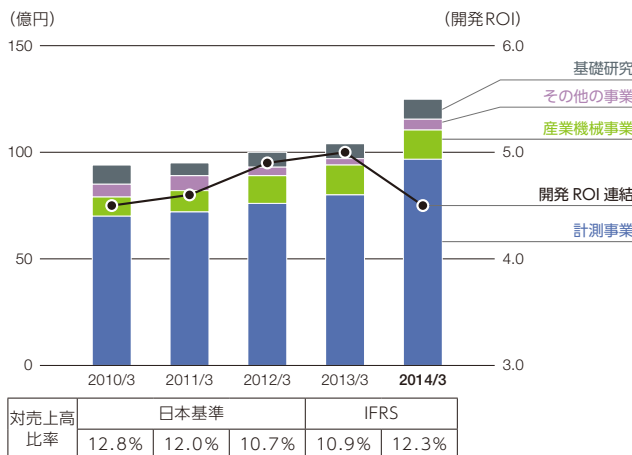
■ 標準化活動への参画

研究開発活動の重要な取り組みの一つが、標準化活動への参画です。アンリツは、国際的な標準化団体である3GPPやGCF、ITU-Tなどに加わり、通信規格の標準化に積極的に関与しています。各標準化団体には、世界の情報通信産業をリードする企業が参画しており、標準化活動への積極的な取り組みを通して培った顧客とのつながり、知識、技術を製品開発にフィードバックすることで、競争力に優れたソリューションをタイムリーに市場投入しています。

■ 当期の主な研究開発成果

- モバイル開発用／製造用測定器 機能強化
LTE-Advanced (FDD/TDD) 対応 など
- Wi-SUN ログ認証用試験装置
独立行政法人情報通信研究機構 共同開発

事業セグメント別研究開発費推移



グローバルな研究開発拠点

